

# 大銀杏

おいちよう

令和元年 11月 15日  
秋号 第3号  
発行：日蓮宗圓藏寺

〒330-0054  
さいたま市浦和区東岸町 1-29  
電話 048-882-2835  
FAX 048-883-9848  
ホームページ  
浦和 圓藏寺 検索

## 日蓮大聖人のお言葉

わざわざいは

口より出でて身をやぶる

さいわいは

心よりいでて我をかざる

重須殿女房御返事

日蓮大聖人の言葉に触れ、日々の生活の指針を求めたいと思います。このお手紙は、弘安4年(1281年)、大聖人60歳の時、身延山から信者の方へ書かれた手紙の一説です。大聖人は、しばしば日常的なことわざを用いて法華經の信仰生活のすすめを示してくださいますが、幸いとは心根の良さから発するものであると教えてくださっています。



埼玉県は自転車発祥の地であることをご存知でしたか？  
自転車は大変便利な乗り物です。しかし、ここ数年、ご存知のように自転車の事故が増えています。

私も学生時代、駅までの約4kmの道のりを毎日クロスバイクと言われるスピードの出る自転車で走っていました。事故に遭いかけたこと、起こしそうになったこともあったと大変反省しています。

あるとき、街中を走っている際に狭い道があり、対面からはおじいさんが歩いてきていました。おじいさんは端に歩いてくださり、私は避けながら「すみません」と言っていて通り過ぎました。もちろん事故になっていませんので、これで良かったのかもしれない。しかし、後から私はこの自分が発した言葉をなぜか反芻していました。

私は、卒業旅行で訪れた海外にて、似たようなシーンが逆の立場であったことをふと思い出したのです。道を譲った私に、外国のかたが放った言葉は、「サンキュー」でした。自然と笑顔で「オッケーオッケー」と答えた記憶があります。ちよつとした違いですが、この言葉一つで受け入れ方も変わります。「ありがとう」と言われて嫌な気持ちになる人も少ないのではないのでしょうか。言葉は発してしまつたら口に戻すことは出来ません。その言葉一つで出会う人と仲良くもなれば仲違えることもあるでしょう。少なくともあの時、おじいさんは笑顔ではありませんでした。

「さいわいは心よりいでて我をかざる」と大聖人は仰っておられます。日頃から手を合わせ、心落ち着かせている人は自然とそれが表に出るものです。それは言葉、態度にも現れて、出会う人を優しい気持ちにさせてくれます。

これまで言葉で何度も失敗した私ですが、その一番の原因は心の未熟さと反省しています。日頃より手を合わせ、やさしい心、言葉で人と接していきたいものです。(良)

# 永代供養墓 久遠廟



○本年、円藏寺境内に、新たに永代供養墓「久遠廟」が建立されました。永代供養墓とは、先祖代々のお墓をお守りする後継者にお悩みの方などがご利用いただけ、お寺が永代に渡ってお守りしていくものです。過去の宗派を問わずどなたでもご利用いただけます。詳しくは寺務所までお声掛けください。

○8月23日、盂蘭盆施餓鬼会法要の前に、檀信徒とともにお題目をお上げし、開眼供養式が無事に執り行われました。

## 作ってくださった石屋さんのご紹介



○永代供養墓の建立は、ご縁をいただいた朝霞市にある亮様様にお願い致しました。

社長の西別府さんは、18歳でこの世界に入り、石材店での修業を経て、27歳の時に自らの会社を立ち上げた、笑顔絶えない素敵な方です。「供養墓に眠る方、また見守る方が安心できるお墓を」といったお寺の細かい注文にも常に向き合ってください、皆様に安心していただける永代供養墓の建立に無事にたどり着きました。感謝申し上げます。



## 御祈祷のご案内

○人生の節目における諸々の祈願を承っております。

**家内安全・身体健全・商売繁盛・当病平癒**

**合格祈願・厄除け・安産祈願・七五三 等**

《祈願料》5千円以上 ◎祈願後に祈願札を授与致します。

### 荒行とは…

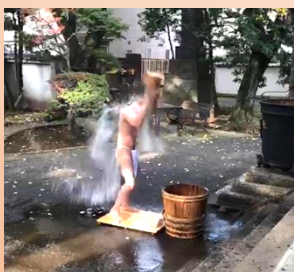
今年も大荒行堂の時期がやってまいりました。当山では、副住職が平成二十七年に初行として入行致しました。日蓮宗の荒行は、世界三大荒行のひとつにも数えられるものです。十一月一日から翌年二月十日までの百日間、全国から僧侶が集まり、一日七回の水行と読経三昧、睡眠時間はわずかに2時間半といった壮絶な苦行に身を投じ、秘伝の修法を授かります。

### 荒行で教わったこと…

荒行の中で一番感じたことは、「生きていることの有り難さ」でした。空腹と睡眠、そして真冬の寒さに耐え、無事に成満させていただいた時、心から「感謝」の気持ちが芽生えました。それは同時に、「ご先祖様を大切にしましょう。」と日頃から偉そうに口にしていながら、本当の意味で何も分かっていなかったと猛省の日々でもありました。今思い返しても、決して一人で成満した修行ではありませんでした。何より、自分自身の弱さを感じた百日間です。檀信徒の方々、家族、大勢の中で支えられて生きているという事を本当の意味で、身にしみて感じた修行だったのです。

### 水行をすること…

しかし、月日が経つと、日々の生活に追われてしまい、その想いも薄れていってしまうのもまた我々凡夫といったところででしょうか。だからといってそのままでも良いわけでは当然ありません。そこで、今年も荒行の期間に合わせて、当山の本堂前にて水行を致します。水行をするということは決して楽なことではございません。ですが、今年も水をいただきながら、荒行を出た時に感じた感謝の想いをしっかりと出し、日々の生活を歩んでいきたいと切に思っております。





# 仏縁

円藏寺に縁ある方々をご紹介 2



とうせん  
うつわや陶千

## 岡田 勉 洋子 様



円藏寺からもほど近い「うつわや陶千」を営むのは岡田さんご夫妻。長年銀行に勤めていたご主人は45歳の頃から趣味で陶芸を始めます。一方、奥様は手先の器用さを活かしてパッチワーク作りに励んでいたそうです。「そんな二人の店をいつか作りたい」と、ご主人の定年を期に一大決心、平成19年、念願の二人の店を構えました。

お店の中に入ると、ご主人が作る陶芸作品を始め、ご夫婦で益子、笠間や埼玉県にある陶芸作家、窯元を直接訪ね、厳選仕入れた作品たちが迎え入れてくれます。お店の片隅にある小物入れなどは全て奥様の手作り。遠慮がちに置かれているのが勿体ないような作品が並びます。ミシンを一切使わず手縫いだけで一点一点丁寧に作り上げられているのもこだわり。

さて、陶芸の魅力は何ととってもその「温かみ」とのこと。デパートで売っている磁器にはない、それぞれの作品にそれぞれの顔があり、ご自身の手に馴染む一点を見つけて何十年と長く愛用できるそうです。また、何よりもいつも笑顔で迎えてくださるご夫婦とお話をしながら陶器を選ぶことがこの店の一番の魅力かもしれません。

そんな岡田さんご夫妻との円藏寺の出会い、3年前の冬。ご参拝されていたご主人と本堂前で立ち話をした頃に遡ります。「いつかお寺で落語の会をやりたいんですよ。」落語好きなお主人と意気投合し、そんな話で盛り上がった記憶を鮮明に覚えていきます。それ以来、お寺で行われるイベントにも足を運んでくださる「寺子屋円藏寺」活動の最初のお客様であり一番の理解者です。

お店は、お寺からも徒歩5分ほどの場所にあります。最近では、ちよつとしたお土産に選ばれる方も多いとのこと。散歩がてらぜひ立ち寄ってみてはいかがでしょうか。

【住所】さいたま市浦和区東岸町6-4

【電話】048-885-5500

【営業時間】11時～18時

【定休日】毎週月曜日・火曜日

### お知らせ

ご法事の予約はお早めに  
檀信徒様はもちろん、檀信徒以外の方のご法要も勤めさせていただきます。大事な方のご供養を続けていきましょう。お申し込み・ご相談はお電話でも受け付けております。

### ご法事の会食

ご法事後の会食に円藏寺の客殿をお使いいただけます。埼玉の食材を多く使った彩懐石「うらわ高砂」の味を楽しむことができます。日程等予約される際にお申し付けください。  
会場費…一万円

### 信行会(護持正法会) 参加者募集

毎月8日(大法要の月はそこに準ずる)、午前10時より、お経を読み、法話を聴く会です。お茶を飲みながら談笑する時間もあり、交流の場にもなっています。35年ぶりに復活したばかりで、まだまだ試行錯誤段階ですが、どうぞお誘い合わせの上、お参りください。どなたでもご参加いただけます。  
布施・千円

### お墓をお探しの方へ

境内墓地 本堂のある境内地のお墓  
原山墓地 本堂から2km程の場所にあるお墓  
永代供養墓 後継者がいない方のお墓  
大小様々な区画がございます。  
寺務所までお気軽にお問い合わせ下さい。

# インドを訪ねて

副住職・良海のインド旅行記①

皆さんは、インドに行かれたことはありますか？

興味はあると言う方は意外と多いのかもしれませんが。「一度行くと、半分の人はその魅力に惹かれ、半分の人はずっと度と行きたくないと言う」そんなことをよく耳にします。私の場合には…もちろん前者でした。18歳で初めて父と訪れ、これまで3度インドを訪れました。何がそこまで魅了するのでしょうか。ここではそのインドの魅力、お釈迦さまの歩まれた聖地のご紹介をしていきたいと思えます。



この歳になると勇気がいるが…、「インドに触れるには、ガンジスに入らないと」18歳の私は迷うことなく飛び込んだ。ありのままの私を、全て受け入れてくれた気がした。

第一回目では、インド全体の魅力をお伝えしたいと思います。広大なインドを旅していると、路肩では炎天下の中、生魚が売られており、バイクは4人乗り、車には数えきれない人が乗っています。電車が遅れることは当たり前。聖なる大河、ガンジスを訪れると、沐浴をしている多くの方。そして、その横を見ると、洗濯をしているお婆さん。もう一方を見てみると火葬場があり、まさに茶毘に付している様子を目の当たりにしました。生まれて、生活をして、死ぬ。ここには仏教の説く、「生老病死」がそのまま見られるのです。そしてその「ありのまま」を、決して蔑ろにするのではなく、そのまま受け入れているように私には感じられたのです。初めてインドを訪れたとき、ゴパールさんという商人と食事をする機会がありました。18歳の私は、将来のこと、



2週間分の荷物はすごい重さだったが、軽々と2つのトランクを頭の上に乗せている。



もちろん危険ではあるが、このような光景が当たり前にあるのもインドである。

人間関係、様々なことを思い悩んでいた。そんな時、ふと彼が言った片言の日本語。「コワイコトナドナイ」。私にはその言葉が何度も頭の中を巡りました。もちろん何事も考えて行動しなくてはなりません。しかし、それだけでなく、全身でその身を投げ出すことで、初めて受け入れられることもあるのだと教わった瞬間でした。(続く)

## 暦

こよみ

### 十一月(霜月)

- 3日 円蔵寺お会式
- 5日 写経会 (午前10時)
- 17日 開運落語会 (午後2時)
- 22日 寺ヨガ (午前10時)
- 27日 オレンジカフェ (午後1時半)
- 29日 寺ヨガ (午前10時)

### 十二月(師走)

- 6日 寺ヨガ (午前10時)
- 8日 信行会 (午前10時)
- 10日 写経会 (午前10時)
- 16日 開運落語会 (午後6時)
- 18日 オレンジカフェ (午後1時半)
- 20日 寺ヨガ (午前10時)

☆どの企画も申込不要、どなたでもご参加いただけます。

☆法務の關係で急遽日程を変更する場合がございます。詳細はホームページをご覧ください。

☆ホームページは、QRコードを読み取っていただくか、浦和円蔵寺で検索！

Facebookも日々更新中。

「いいね!」お待ちしております。

